

関係各位

病虫害防除所長

令和3年度病虫害発生予察技術情報（第1号）の送付について

普通期稲におけるスクミリンゴガイの防除対策について

5月の巡回調査の結果、早期稲におけるスクミリンゴガイの発生面積が県東部、中央部、中西部で平年よりも多く（平年比：142～227%）（表）、発生程度が高いほ場も多く見られています。

厳寒期の気温は平年に比べて低く、越冬中の死貝率は高かったと考えられるものの、昨年の普通期稲での発生面積は平年の2.3倍と多かったことから、今年も多発することが予想されます。今後は、ほ場での発生状況に注意して、下記の対策を心がけて下さい。

記

「防除対策」

- 水路から本田への侵入を防ぐため、取水口、排水口に金網などを張る。
- 発生水田では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行うとともに、貝や卵塊を捕殺する。なお、寄生虫が感染している恐れがあるため捕殺は素手で行わないように注意する。
- 薬剤防除は止水期間中に行うとともに、農薬使用基準を遵守する。

表 早期稲におけるスクミリンゴガイ発生面積(ha)（令和3年5月中～下旬調査）

| | 東部 | 中央部 | 中西部 | 西部 | 合計 |
|----|-------|---------|-------|-------|---------|
| 本年 | 223.3 | 1,509.2 | 493.6 | 362.0 | 2,588.1 |
| 平年 | 98.4 | 1,064.1 | 221.9 | 332.5 | 1,716.9 |